一　般　質　問　発　言　通　告　内　容

個人第１号　　氏　名　　余語　智

質　問　項　目 No.　1	街路樹及び公園樹の健全な樹木管理について	備　考
要 旨	（１）街路樹及び公園樹の管理状況について ア　樹木の樹種等の管理状況を問う。 イ　樹木の異常の有無をどのように把握し対処しているのか問う。 ウ　倒木により市民生活に影響を及ぼした事例を問う。 （２）街路樹及び公園樹の枝葉の剪定について 剪定は、どのような基準で行っているのか問う。	

質　問　項　目 No.　2	小中学校の学校再編計画について	備　考
要 旨	（１）篠岡地区の学校再編計画案について ア　学校再編計画案の具体的な内容を問う。 イ　学校再編計画案における課題を問う。 （２）小中一貫教育の導入について 学校再編における小中一貫教育の考え方を問う。 （３）学校再編後の廃校の利活用について 学校再編と同時に廃校の利活用についても検討していく必要があるが、見解を問う。	

個人第２号　　氏　名　　小川　真由美

質　問　項　目 No.　１	河川の堤防道路の維持管理について	備　考
要 旨	（１）草刈りについて 　近年の温暖化による気候変動は、雑草の生育にも影響を与えており、草刈りの必要性が高まっています。 　温暖化により雑草の生育が活発化し、また、冬季は特に乾燥が激しくなり、草刈りを行わない場合、火災のリスクが高まる可能性もあります。その為、市民より草刈りの頻度を増やして欲しいという声があります。 　河川の堤防道路の草刈りの現状について伺います。 （２）通学路になっている河川の堤防道路について 　河川の堤防道路は、学校が指定する通学路として利用されています。また、歩道が整備されていない道路の路側帯を緑色に着色して車両の運転手に通学路であることを視覚的に認識させるためにグリーンベルトとして整備されているところもあります。 　特に河川の堤防道路では、草刈りは勿論のこと、フェンスやアスファルトの修繕の要望も多くいただきます。 　堤防道路の維持・修繕などの取組を伺います。	

質　問　項　目 No.　２	オオキンケイギク（特定外来生物）の駆除について	備　考
要 旨	（１）市としての対応について 　オオキンケイギクは、特定外来生物として外来生物法で規制されている植物です。繁殖力が強く、在来の植物の生育を阻害する可能性があるため、栽培や運搬、販売などが禁止されています。 　道ばたや河川敷、空き地などに生えていることが多く、特に日当たりの良い場所に多く見られます。その為、小牧市としては、駆除活動を市、企業、そして市民の協力で行っています。 　その活動内容を伺います。	

個人第２号　　氏　名　　小川　真由美

質　問　項　目 №　３	選挙の投票率向上について	備考
要 旨	選挙の投票率向上の取組についてはこれまで何度も質問してきました。夏の参議院議員選挙も近いので、再度質問します。 選挙の投票率を上げるためには、まず投票所の立地を改善し、交通の便の良い場所に設置することが重要です。また、若年層の関心を高めるために、インターネットやスマートフォンを積極的に活用し、ＳＮＳでの情報発信も効果的です。加えて政治や選挙に関する主権者教育を強化し、政治的関心を高める取組も必要です。 課題も多くありますが、多くの方に投票に出向いてもらえるような改善や取組について改めて伺います。 （１）投票率向上の取組について ア　期日前投票所の数を増やす考えはないか伺います。 イ　ポスター掲示場設置箇所の位置図のデジタル化について伺います。 ウ　投票済証の検討状況について伺います。	

個人第３号　　氏　名　　星熊　伸作

質　問　項　目 No.　１	防災力の強化について	備考
要 旨	（１）被災者に対する福祉的支援等の充実について 　災害対策基本法の改正による被災者支援の充実の観点から、高齢者等の要配慮者の支援強化について伺う。 （２）避難所環境の整備について ア　避難所の運営指針で明記された「スフィア基準」について、本市の避難所におけるトイレ基準の在り方を伺う。 イ　本市の避難所における一人当たりの居住空間の在り方を伺う。 ウ　乳幼児用段ボールベッドを配備してはどうか伺う。 エ　避難所にキッズスペースを設置してはどうか伺う。 （３）「耳で聴くハザードマップ」について 　「耳で聴くハザードマップ」の見解について伺う。 （４）大規模地震発生時の出火防止対策について ア　大規模地震発生時における「通電火災」のリスクについて、その対策としての「感震ブレーカー」の有効性をどのように認識されているか伺う。 イ　「感震ブレーカー」の設置費用の一部を補助する制度を導入する考えはあるか伺う。	

質　問　項　目 No.　２	ＲＳウイルス感染症について	備考
要 旨	（１）ＲＳウイルス感染症の予防対策について ア　呼吸器の感染症であるＲＳウイルス感染症について、市はどのような疾病と認識しているか伺う。 イ　これまでの流行状況について伺う。 ウ　感染予防対策について伺う。	

個人第４号　　氏　名　　佐藤　悟

質　問　項　目 №.　1	ヘルスラボ・こまきについて	備考
要 旨	ヘルスラボ･こまきが１月 19 日にオープンして約半年を迎えようとしている。山下市長が今年度のテーマとして掲げる、「健康」「環境」は小牧市の人口減少に対しての大きなテーマでもある。ヘルスラボ・こまきは誰もが気軽に利用できる「健康習慣化サポート施設」であり、健康に対しての気づき、きっかけ、習慣づくりを後押しする素晴らしい施設である。 （１）利用状況について 月毎の利用者数について問う。 （２）周知方法について どのようなＰＲを行ってきたのか問う。 （３）これまでの取組について 利用者を増やすための取組について問う。	

個人第５号　　氏　名　　鈴木　裕士

質　問　項　目 №　１	市役所の開庁時間について	備考
要 旨	（１）県内自治体の開庁時間について 見直し状況を問う。 （２）市役所本庁舎の利用状況について 現在の市民の来庁状況を問う。 （３）開庁時間の見直しの方向性について 今後、見直す考えはあるかを問う。	

質　問　項　目 №　２	自然災害の自助、共助、公助について	備考
要 旨	（１）自助について ア　各家庭での災害に対する備えの状況を問う。 イ　市民の「正常性バイアス」に対しての市の対応を問う。 ウ　「避難所外避難者」について市の見解を問う。 （２）共助について ア　自主防災会、地域協議会、市の連携を問う。 イ　企業、各種団体との連携を問う。 （３）公助について ア　本年３月に外水ハザードマップが発行されてからの市民の反応を問う。 イ　災害関連死に対する災害弔慰金の支給に関する審議会の設置について市の見解を問う。 ウ　「公助の限界」について市民への周知する必要性を問う。	

個人第６号　　氏　名　　加藤　晶子

質　問　項　目 №　１	発火性危険ごみについて	備考
要 旨	（１）発火性危険ごみの排出に対する取組について ア　リチウム蓄電池を使用している充電式家電製品等は、意図していない区分に混入して排出されると、発火事故につながるおそれがあることから、本年１月より「発火性危険ごみ」と名称が変わったが、現在の排出状況について伺う。 イ　収集・処理施設での発火事故の事例について伺う。 ウ　処理の方法について伺う。 エ　市民に対し、更なる啓発と周知が必要と思うが、どのように考えているか伺う。	

質　問　項　目 №　２	ＨＳＰ（ハイリー・センシティブ・パーソン）について	備考
要 旨	ＨＳＰ（Highly Sensitive Person）とは、生まれつき感受性が高く、刺激に対して敏感に反応する特性を持つ方々のことを指します。過度な音や光、人混み、職場や学校での過剰な刺激によって強いストレスを感じやすい傾向にあり、こうした方々への配慮が求められています。 （１）ＨＳＰ（ハイリー・センシティブ・パーソン）に対する取組について ア　市は、どのように認識しているか伺う。 イ　保育園における取組について伺う。 ウ　市教育委員会における取組について伺う。 エ　市民に対する理解の促進や支援体制等、市として取組を進めていく考えはないか伺う。	

個人第７号　　氏　名　　河内　光

質　問　項　目 №　１	都市計画道路等の整備状況について	備考
要 旨	都市計画道路には個別固有の整備目的がある。隣接都市との連携路線、起終点が市町間をまたぐ一般県道、インターチェンジにつながる交通拠点を連絡する路線、災害時の緊急輸送道路等である。また、用地買収や整備工事を考えれば、膨大な予算と年月が必要となるが、完成を待ち望む地域の声を多く聞く。 （１）巾下地区の整備状況について ア　都市計画道路一宮春日井線の整備状況を問う。 イ　都市計画道路一宮舟津線の整備状況を問う。 ウ　市道廣田１号線の整備状況を問う。	

個人第８号　　氏　名　　阿部　哲己

質　問　項　目 №　１	鷹ヶ池ににについて	備考
要 旨	小牧市東部野口地区にある鷹ヶ池は本来農業用のため池であるが、かつては市民が集う憩いの場としての活用もあった。 （１）鷹ヶ池の活用について ア　経緯について問う。 イ　現在の管理状況について問う。 ウ　今後の活用について問う。	

個人第９号　　氏　名　　永井　孝典

質　問　項　目 №　１	北里地区の治水について	備考
要 旨	近年、夏から秋にかけて、全国的に局地的豪雨が頻発している。「線状降水帯」等、これまで聞かなかったような専門用語が、天気予報でも頻繁に使われるようになり、各地で生活を脅かすような雨が発生し、水害により日々の暮らしが破壊されている状況である。相対的に土地の低い地域があり、平成 12 年に発生した東海豪雨の水害が記憶に残る北里地区だが、雨水の逃げ場でもある田畑が減り、倉庫などの建設が盛んになっている。 （１）北里地区の治水対策の状況について 　ア　愛知県による治水事業の整備状況について問う。 　イ　小牧市による治水事業の整備状況について問う。	

個人第１０号　　氏　名　　佐藤　早苗

質　問　項　目 No.　1	働く介護者ビジネスケアラーについて	備考
要 旨	高齢化の進展に伴い介護を担う現役世代が増えています。仕事と介護の両立が難しく、やむなく離職に至る「介護離職」は、個人の生活基盤を脅かすだけではなく、企業の人材確保や地域経済にも深刻な影響を及ぼします。 （１）市職員への周知啓発について ア　職員の介護休暇の取得状況について伺います。 イ　これまでの取組について伺います。 （２）市内企業への周知啓発について ア　ビジネスケアラーの把握について伺います。 イ　これまでの取組について伺います。	

質　問　項　目 No.　2	赤ちゃん支援の充実について	備考
要 旨	少子化の進行が一層深刻さを増しており、それに伴って子育て支援の重要性が益々高まっています。中でも出産直後から赤ちゃんのいる家庭を支える支援は、赤ちゃんの健やかな成長環境の整備という観点からも非常に大きな役割を担っています。 （１）母子への支援について ア　出生数の推移を伺います。 イ　乳児家庭全戸訪問事業の取組について伺います。 （２）出産祝いについて 市オリジナルの命名書を作成する考えはないか伺います。 （３）母乳バンクの周知について ア　出生体重が1,500ｇ未満で出生した低出生体重児の令和６年度の届出数について伺います。 イ　これまでにどのような周知をしてきたのか伺います。	

個人第１１号　　氏　名　　諸岡　英実

質　問　項　目 №　１	妊産婦・外国人等の避難支援体制について	備考
要 旨	災害対策基本法では、要配慮者として高齢者や障害者のほか、妊産婦、乳幼児、子ども、日本語を十分に理解できない外国人住民なども明記されている。 しかし、実際の避難所運営において妊産婦や乳幼児、外国人への対応は依然として不十分である。福祉避難所への受入対象の明確化や、言語・医療・プライバシー面での対策、避難所マニュアルの改善を通じて、誰一人取り残さない避難支援体制の構築を提案する。 （１）妊産婦・乳幼児の避難支援について ア　妊産婦や乳幼児を抱えた家族が指定一般避難所に避難した場合、どのような対応・設備が用意されているか問う。 イ　指定一般避難所で分娩等の急変事態が発生した場合の対応について問う。 ウ　学校教室を避難所として活用することについて、授業再開との兼ね合いから市の考え方を問う。 （２）外国人住民への避難支援について ア　日本語の理解が難しい外国人への災害時の情報伝達・避難誘導・避難所支援について、市の体制はどのようになっているか問う。 イ　多言語表示シートや多言語指差しボードといった多言語対応ツールの整備・運用状況について問う。 ウ　ピクトグラムや図解など、非言語的な情報伝達手段の整備状況について問う。 （３）避難時の確認事項について ア　避難所利用者登録票には支援ニーズを記載する欄が設けられているが、実際の避難所運営の現場で、こうした支援ニーズの把握から対応までどのような運用になるか問う。 イ　災害時には、いわゆる“非申告型”の要支援者も想定されるが、市として対応するための体制は整備されているか問う。	

個人第１１号　　氏　名　　諸岡　英実

質　問　項　目 №　２	地域医療を支える看護人材の安定確保について	備考
要 旨	看護師の人材確保は、地域医療の安定的な提供に不可欠である。近年、看護師の採用競争は全国的に激化しており、自治体としても地元での人材育成と職場への定着支援がますます重要となっている。市民病院の看護師の採用状況と定着率、また今後の人材確保の戦略が不可欠と考える。 （１）小牧市民病院における看護師採用について ア　勤務する看護師のうち、過去５年間の春日井小牧看護専門学校出身者の割合を問う。 イ　過去５年間の学校種別ごとの採用実績について問う。 ウ　看護師体制について、全体及び病棟・外来・救急・夜勤など各部署ごとの充足状況について問う。 （２）小牧市民病院における看護師の定着状況について ア　看護師の休職状況について問う。 イ　看護師の離職状況について問う。 ウ　その主な理由について問う。 （２）休職や離職を希望する方へのフォロー体制について ア　相談体制について問う。 イ　職場定着のための取組について問う。 （３）今後の看護師確保に向けた戦略について ア　小牧市民病院として、将来的な看護師確保戦略はどう描いているか問う。	

個人第１２号　　氏　名　　河内　伸一

質　問　項　目 №　１	小牧市民病院の経営状況について	備考
要 旨	（１）運営上の課題について ア　運営において現状どのような課題を抱かえているのか問う。 イ　経営改善に向けてどのような取組を行っているのか問う。	

個人第１３号　　氏　名　　黒木　明

質　問　項　目 No.　1	小牧市民病院の医療費未払いについて	備考
要 旨	（１）状況について ア　過去５年間の国籍別医療費未払い金額を問う。 イ　過去５年間の国籍別医療費未払い件数を問う。 ウ　未払い金の回収方法について問う。 （２）回収について ア　過去５年間の国籍別の時効等による未払い金回収不能額を問う。 イ　過去５年間の国籍別の時効等による未払い金回収不能件数を問う。 ウ　海外に出国してしまった場合の対応について問う。	

質　問　項　目 No.　2	小牧市の出生状況について	備考
要 旨	（１）出生数について ア　過去５年間の出生数を問う。 イ　このうち、外国人住民の出生数を問う。 （２）出産育児一時金について ア　過去５年間の外国籍の方への支給件数を問う。 イ　過去５年間の外国籍の方への支給金額を問う。 ウ　過去５年間の海外出産の支給件数を問う。	

個人第１４号　　氏　名　　大上　利幸

質　問　項　目 №.　1	パークアリーナ小牧の交通手段について	備考
要旨	「パークアリーナ小牧」は最大約 5,000 人収容可能な、愛知県内屈指のキャパシティを誇る「メインアリーナ」に「サブアリーナ」「トレーニングジム棟」「サッカーグランド」の４つのスペース等で構成されているが、駐車台数は乗用車 637 台（臨時駐車場 202 台含む）であり、収容人数に対して非常に少ない駐車台数であるため問題があると感じています。 開催されるイベントによっては、駐車場不足の影響により、利用者と近隣住民にも多大なご迷惑をおかけしているのが現状です。 さらに来年開催の第 20 回アジア競技大会において、バレーボール競技会場の仮決定もされていますので早急な対応が必要だと考えます。 （１）利用者の現状について ア　車での利用者数を伺います。 イ　公共交通機関での利用者数を伺います。 ウ　交通手段に関する利用者の声を伺います。 エ　現状の駐車台数で足りなくなったイベントを伺います。 （２）交通手段の課題について ア　駐車場の課題を伺います。 イ　公共交通機関の課題を伺います。 ウ　近隣住民への対応について課題を伺います。 （３）交通手段の今後の取組について ア　利便性向上の取組を伺います。 イ　第 20 回アジア競技大会の対策を伺います。	

個人第１４号　　氏　名　　大上　利幸

質　問　項　目 №　２	健診センターについて	備考
要 旨	小牧市民病院においては、総務省より「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」に基づき「小牧市民病院経営強化プラン」を策定されています。 その強化プランは、「愛知県地域医療構想」等を踏まえて果たすべき役割を明確化され、経営の健全化に向けた取組をされていますので、今後も注視したいと思います。 しかし、病気の早期発見にとても重要な市民病院内の健診センターに関しては、健診者の声の収集やその問題に対する改善等の取組が明確にされていないことと、さらに最も重要な病気の早期発見に向けた取組が不足していると考えます。 （１）健診センターの現状について ア　売上高の推移を伺います。 イ　健診者数の月別推移を伺います。 ウ　事業収支の推移を伺います。 エ　健診センターの特徴（差別化）を伺います。 オ　健診者の声を伺います。 （２）健診センターの課題について ア　検便容器の利便性向上について伺います。 イ　検査の待ち時間の改善について伺います。 ウ　胃内視鏡検査の導入について伺います。 エ　その他の課題を伺います。 （３）今後の取組について ア　早期発見に向けた取組を伺います。 イ　健診者の増加に向けた取組を伺います。	

個人第１５号　　氏　名　　猪飼　健治

質　問　項　目 №　１	学校再編について	備考
要旨	（１）学校再編計画における地域協議について ア　篠岡地区の学校を考える会が開かれているが、地域協議の現在の進行状況を問う。 イ　篠岡・北里・巾下地区の地域協議について、今後の予定を問う。 （２）篠岡地区学校再編計画の検討内容について ア　スクールバスの導入も含めた通学距離や通学時間の検討について、シミュレーションの実施状況を問う。 イ　シミュレーションで、桃花台ニュータウン内の徒歩による通学時間は最大で約何分になると予想できるか問う。 ウ　市独自に想定している通学時間等の基準について問う。 エ　運転手不足がいわれているが、スクールバス運行計画の進捗状況について問う。 （３）学校再編計画と小牧市都市計画マスタープランとの整合性について 桃花台ニュータウンをはじめとする東部篠岡地域の人口減少を最小限にとどめるためにも、学校の果たす役割は大きいと考える。地域づくりの一環としての学校の在り方について、見解を問う。 （４）学校統廃合後の学校施設の利活用について ア「学校統廃合後に、少なくとも校庭と体育館だけは残す」という施策方針があるとすれば、その根拠は何か問う。 イ　春日井市高蔵寺ニュータウンでは、統廃合後の学校施設を利用した「グルッポふじとう」という地域複合施設ができているが、本市としてもこのような利活用の仕方を考えないか、見解を問う。	

個人第１６号　　氏　名　　安江　美代子

質　問　項　目 No.　1	航空自衛隊Ｔ－４練習機の墜落事故について	備考
要 旨	（１）５月 14 日に発生した事故について ア　事故からこれまでの市の対応について問う。 イ　入鹿用水からの取水の影響について問う。	

質　問　項　目 No.　2	物価高騰対策について	備考
要 旨	（１）市独自の対策について 令和７年第１回定例会以降、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の使途はどのようになっているのか問う。 （２）公平性のある対策について 令和７年第１回定例会で提案した水道料金の基本料金減免を実施すべきと思うが見解を問う。	

個人第１７号　　氏　名　　伊藤　皇士郎

質　問　項　目 No.　1	出産支援の充実について	備考
要 旨	現在、無痛分娩は母体の心身の負担軽減や、分娩時の安全性向上に一定の効果があるとされている。しかし、日本では全体の約８～10%程度の実施率にとどまっており、欧米諸国（70～80%）と比べて大きな開きがある。本市独自の取組が市民から期待されている。 （１）本市における出産環境の現状認識について ア　無痛分娩に対応できる医療機関は何か所あるか伺う。 イ　市内の年間出産数における無痛分娩の実施割合について伺う。 （２）無痛分娩のニーズと実態の把握状況について 妊産婦や家族から、無痛分娩に関する要望は上がっているか伺う。 （３）無痛分娩への経済的支援の検討について 費用面の負担軽減を図るため、無痛分娩費用に対する補助制度の創設や、既存の出産支援策に加える考えはあるか伺う。	

質　問　項　目 No.　2	教育関連費用の家庭への支援について	備考
要 旨	子どもたちの学習環境の格差や、家庭の経済状況による教育機会の偏在が依然として課題として挙げられている。文部科学省の調査でも、低所得世帯の子どもほど学習塾や習い事への参加率が低いというデータが出ている。これは将来の学力格差、さらには地域間の社会的格差の固定化にもつながる深刻な問題であると考える。 （１）本市の家庭における学校外教育関連費用の現状について ア　世帯所得別に見た学習塾・習い事等への支出の把握状況について伺う。 イ　放課後や休日における学習・体験活動支援の現状について伺う。 （２）学校外における教育バウチャー制度について ア　把握されている他自治体の導入事例について伺う。 イ　導入の必要性に対する認識について伺う。	

個人第１８号　　氏　名　　山田　美代子

質　問　項　目 №　１	「こまき『夢☆チャレンジ』科」について	備考
要 旨	令和７年４月から、市内小中学校に新たな教科「こまき『夢☆チャレンジ』科」が設けられた。文部科学省の授業時数特例制度を活用して従来の「総合的な学習」の充実を図る狙いがあるようだが、小学校４年生から６年生では主要４科目の履修時間を年 35 単位、中学校１年から３年では主要５科目の履修時間を年 20 単位削り、「こまき『夢☆チャレンジ』科」に充てられる。 主要科目の履修時間が削られることにより、児童生徒の基本的な学力の低下につながりはしないか、様々な課題を抱える教育現場において教員の負担が更に増すのではないか、児童生徒がとまどいはしないか、心配である。 （１）創設の経緯について 教育現場の教員等から要望があったのか問う。 （２）実施内容について ア　従来の「総合的な学習」の時間との違いを問う。 イ　具体的に削られる科目について問う。 ウ　削られた履修科目はどのように補うのか問う。 エ　探究的な学びにおける学校図書館の活用方法を問う。 （３）実施後の検証について 検証方法について問う。	

個人第１９号　　氏　名　　谷田貝　将典

質　問　項　目 №.　1	小牧版マイワンニャンバー制度について	備考
要 旨	先月、こまき民主市議団の会派行政視察で群馬県大泉町を訪れ、マイニャンバー制度について学んできた。「マイニャンバー制度」とは、愛猫へのお約束宣言(適正飼育宣言書)に署名し登録することで、宣言証明書と共に飼い猫の写真や名前、住所などが載った缶バッジが発行される制度である。迷子や徘徊している猫が野良猫となりにくく、糞害の防止や災害時の対応にも連動していくとの事で、この制度を使った様々な効果が期待されている。 本市も動物愛護や犬猫殺処分ゼロを目指す政策を実行する中で、飼い猫をはじめ、地域猫、飼い犬も含めた「小牧版マイワンニャンバー制度」を導入すると良いと考える。 （１）小牧版マイワンニャンバー制度の導入について ア　飼い猫、野良猫の去勢避妊手術補助件数を問う。 イ　野良猫に関する小牧市への苦情の件数を問う。 ウ　本市の飼い犬の数を問う。 エ　犬猫殺処分の頭数を問う。 オ　不幸な猫を増やさないまちづくりコースのふるさと納税額を問う。 カ　お約束宣言(適正飼育宣言書)について問う。 キ　小牧版マイワンニャンバー制度導入について問う。	

個人第２０号　　氏　名　　小沢　国大

質　問　項　目 No.　1	マイナンバーカードについて	備考
要 旨	マイナンバー制度が導入され今年で 10 年が経過しようとしている。その間様々なサービスが付与され、コンビニでの証明書の発行やマイナ保険証の導入等、各自治体におけるマイナンバーカードの交付率も８割近くになっていると聞くところである。 （１）交付率について 現状について問う。 （２）各サービスの利用状況について マイナンバーカードを活用した証明書自動交付サービスの利用状況について問う。	

質　問　項　目 No.　2	多文化共生社会について	備考
要 旨	本市の外国籍の住民は、リーマンショックで大きく減少したものの近年では増加傾向にある。しかし、小牧市国際交流協会の事業実績を見ると、本市の外国籍の住民の割合から見ても参加が少なく感じるところである。もっと市政をはじめ多くのイベント等にも参加してもらえるようにすべきと思うが、本市の状況について問う。 （１）外国籍の住民について ア　外国籍の住民登録者数の推移について問う。 イ　国籍別の割合について問う。 （２）多文化共生施策について ア　現状について問う。 イ　課題について問う。 （３）小牧市国際交流協会が実施している行事やイベント等への参加状況について 現状について問う。	